

# 2021年度第1回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日 時：2021年10月27日（水） 午前10時30分

■会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内 容：

## 1. 報告事項

- (1) 2020年度の美術館評価について ……（資料1）
- (2) 2020年度後半から2021年度前半の美術資料の収集状況について ……（資料2）
- (3) 2021年度前半期の事業の振り返りと総括について  
    展覧会事業  
    「アーティストたちの室内画 一見慣れない日常」 ……（資料3）  
    「#映える風景を探して 一古代ローマから世紀末パリまで」 ……（資料4）  
  
    版画講座等普及事業 ……（資料5）

## 2. 審議事項

- (1) 2022年度事業（案）について  
    展覧会予定 ……（資料6）  
    普及事業予定 ……（資料7）

## 3. その他

- (1) 仮処分申し立てについて ……（追加資料1）
- (2) 芹ヶ谷公園「芸術の杜」パークミュージアムについて ……（追加資料2）

■出席委員：磯見 輝夫                      諸川 春樹  
                  三上 豊                              降旗 千賀子  
                  吉田 和夫                              岩崎 直美  
                  吉川 篤                                 三竹 和行

( 敬称 略 )

■出席者：大久保館長

篠崎文化スポーツ振興部長

鈴木副館長 滝沢担当課長 (学芸係)

和南城担当係長 (学芸係) 渡邊係長 (普及係)

安田係長 (管理係) 内海担当係長 (管理係)

中村 (管理係・書記)

■会議録 (要約)

○開会の宣言 (国際版画美術館副館長)

○部長挨拶 (文化スポーツ振興部長)

○館長挨拶 (国際版画美術館館長)

○委員紹介

○会長、副会長の選出について

委員の互選により、会長に磯見委員、副会長に諸川委員を選出した。

○美術館職員紹介

1. 報告事項

(1) 2020年度の美術館評価について

○資料1により事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員・・・来館して初めて無料シャトルバスがあることを知ったので、もっと広く広報を行っていただけたら良いと思った。

委員・・・コロナウイルスの影響による施設利用者に対する還付というのは、市民ギャラリーのことか。

事務局・・・市民展示室、アトリエ、講堂についての施設使用料の還付となる。

委員・・・③単位あたりのコスト分析における入館者というのは有料で観覧した方なのか。

それとも無料の方も含めているのか。

事務局・・有料の観覧者に限らず、すべての入館者の人数となる。

委員・・私たち社会教育委員は生涯学習審議会の答申をもうじき出すところで、生涯学習センターのあり方を検討しているところである。

オンラインなども活用し、生涯学習事業とタイアップし、生涯学習センターを HUB のような機能として、統合的に発信できるような仕組みづくりを進めている。

国際版画美術館は有名なので、他市からも行ってみたいという声があると思うが、町田市以外への広報はどのように行っているか。

また、助成金を活用されているのはとても良いことだと思うが、企業とのコラボレーションはどのような取り組みをされているか。

それと、入館者の中に国際版画美術館の会員のような方はいらっしゃるのか。いらっしゃると思えばどの程度か。

事務局・・町田市以外の広報PRについては、HP、SNS等の発信に加え、都心の方も含め駅貼りのポスターを掲示している。

企業とのコラボについては、当館でも新しい取り組みをしていきたいと思っているところで、町田市内のパリオという事業所と国際版画美術館、文化振興課とが連携し、施設利用者へ向けてチラシを作成したり、イベントを行ったりしている。このようなところから少しずつ連携を広げていきたいと考えている。

委員・・2020年度は美術館連絡協議会の奨励賞を受賞されたようで、大変素晴らしいことだと思う。

決算を拝見するとかなり痛手とは思いますが、全体を見ると前進しているように見受けられる。

展覧会でも多くの方が来られているようで、それほど悲観してはいないが、たとえば企業に寄付金などを呼びかけてみても良いのではないか。

企業にとっては芸術を後押しすることは非常に重要なことであるし、どの程度実現できるかわからないが、将来的なことを考えるとそういった方面に手を伸ばしてみるのも良いと思う。

事務局・・海外では学芸員の業務として寄付金集めは大きな仕事だと聞いたことがある。

当館でも以前作品を購入するため、ふるさと納税を活用した事もあり、寄付金については今後の検討課題と考えている。

委員・・最近はオンラインでの発信が進んでいる。オンライン配信やメンバー集客等は今

後かなり大きな影響がある。例えば版画美術館の会員のような制度を作り、会員へ向けて事業等についてメール配信するなどしても良い。

版画に興味を持っている方達もなかなか情報を得る手段がないため、そのようなネットワークを構築するのもひとつの手段だと思う。内容によっては有料配信を考えても良いのではないか。

事務局・先ほどお答えが漏れてしまったが、会員のような制度では国際版画美術館友の会がある。オンラインを活用した取り組みについては国際版画美術館友の会とも相談していきたい。

(2) 2020年度後半から2021年度前半の美術資料の収集状況について

○資料2により事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

・なし

(3) 2021年度前半期の事業の振り返りと総括について

○資料3、4、5により事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員・室内画展ではゾーニングを設けたとのことだが、設けるにあたり基準のようなものはあるのか。

事務局・法に触れるようなものでなくても敬遠されるお客様もいらっしゃるので、様々な状況を想定し、協議しながら作品により判断している。

委員・若者に向けた取り組みについて努力されていることと思うが、観覧者数は全体の1割にとどまっている。SNS等で広報もされていると思うが、特定の団体へアプローチするなどの方法も考えて良いのでは。

先ほど意見があった寄付金を受ける企業のホームページで宣伝してもらうなど、版画美術館以外で宣伝媒体があると良いと思う。

普及事業については小学生が定員もしくはそれ以上の参加があり、やはり観るだけでなく体験ができると集まりやすいと考えられるので、例えば美術館と公園が連携してアプローチしていけば、より賑やかになると思う。

事務局・当館は公共の施設ということもあり、特定の団体に向けてのアプローチについ

ては、寄付金も含めて予算の計上と執行という仕組みの中で難しい場合もあるが、整理しながら今後検討していく。

事務局・・今頂いたご意見は版画美術館だけでなく、工芸美術館設立後も非常に重要になってくる。子どもと体験を重要視し、美術や芸術に子どもも含め親しんでもらおうと考えているため、版画美術館以外の場でも今後の参考にさせて頂く。

委員・・子どもは「作る」という行為が好きなので今後も体験できるようなイベントがあると嬉しい。

委員・・展示事業についてはこれまでの蓄積が反映された見ごたえのある展示だった。

普及事業について、今後色々新しいことが要求されると思うがよく試行錯誤されている。講座タイトルで参加者をつかみ、子どもの想像を掻き立てるようなものになると良い。

また、版画美術館は35年になる歴史の中で、作家の方が育ったりされてきたと思うので、これまでの普及活動の記録を作ってほしい。

委員・・観覧料については割引の利用者が多く安心した。

室内画展はどのような切り口で見せていくか目の付け所も良く、タイトルのネーミングも凝っている。今後も工夫を続けてほしい。

広報活動は一般の方によって情報が広まる新しい時代になってきているので、インターネットをどんどん活用してほしい。ポスターは色などで目を惹くようなものになるよう、今後も力を入れてほしい。

また、観覧者アンケートでは性別の回答項目はいらぬのではないか。

普及事業についてはコロナ禍のなか、実技の講座実施について苦労がうかがえる。

委員・・以前開催したインプリントまちだ展ではFC町田ゼルビアとコラボしたと思うが、一過性で終わるのはもったいないので、今後もどのようにアピールしていくか、取り組みを続けてほしい。今まで行ってきたことを見直すことも大事。

委員・・広報の媒体について見直してほしい。解説は非常に大事なので、ホームページに掲載するなど、興味を持ってもらうようにうまく伝えられると良い。バーチャルやSNSはリアルとのつながりの中で本領発揮できると考えるので、オンライン上でまずは興味をもってもらう入口のようなものを提供し、実際に来て頂けることもあると思う。

最近企業の社会的貢献が非常に求められ始めており、社会性をどのように担保するかを問われている時代なので、何らかの形で民間企業に協力を求めれば提携してくれる可能性はある。

また、世界へ繋げるため、外国人へ向けての広報も重要と考えるので、イベン

トのオンライン配信などの工夫を今後もお願いしたい。

委員・・小学生はイベント等にも多く参加いただけていると思うが、中学生になると興味の幅や行動範囲も広がり、近くに住んでいても美術館へ足を運ぶ機会も少なくなる。

美術教員には版画美術館で行われている事業の紹介もしており、美術に触れる機会を作るよう、教員には伝えている。

委員・・学校教育における美術の時間は大幅に減っている。子どもにとって何かを作ることは大事なことなので、版画美術館で体験ができるのは大変素晴らしい。

今後も充実させてほしい。

## 2. 審議事項

### (1) 2022年度事業案について

○資料6及び7により事務局から説明。原案のとおり承認された。

○委員からのご意見、ご質問等

委員・・版画運動展について、タイトルが少し固く感じ、戦後といっても若者には伝わりづらいと思うので、もう少しやわらかくキャッチーなものになると良い。

事務局・・タイトルについては現在協議中。参考にさせていただく。

## 3. その他

### (1) 仮処分申し立てについて

### (2) 芹ヶ谷公園「芸術の杜」パークミュージアムについて

○追加資料1及び2により事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員・・アトリエについて、個人や油彩で活動している団体の従来の使い方は継続できるのか。

事務局・・現在できることは、新しい施設でもできるようにする。

委員・・仮処分申し立ては美術館の改築に反対するものかと思うが、どのような意図で出されたのか。

また、タイケンステージについては行政以外の組織と協働できるいい機会だ

と思う。

学校教育では創作の時間が減っておりとても良い計画だと思うので、是非進めてほしい。

事務局・・仮処分申し立てについて、町田市としては間違っただけを行っているつもりはないが、司法判断が求められており、現在はこれ以上の説明ができない状況。

また、タイケンステージについては、パークミュージアム全体で民間との連携の可能性について現在も検討を進めている。

事務局・・学校とどのように連携していくか検討しているところだが、スペース的には学校や学年単位での利用は難しいと考えている。

他の施設ではクラブ活動や特別支援学級と連携し、活動している話も伺っている。

小中学校の校長先生も当協議会にはいらっしゃるので、相談させていただきながら進めていきたい。

委員・・学校教育だけでなく、放課後の活動や単純に興味を持った子など、子ども全体で捉えて検討してほしい。

事務局・・頂いたご意見も参考にしながら、広く連携を行っていく。

委員・・新しいアトリエは教育普及に対する期待がとても大きい。充実したプログラムを作るためには人員が必要なので、人をきちんとつける必要があることを意見として申し上げておきたい。

○閉会の宣言（会長）

—以上—